

(水産研究所) 試験研究計画書

番号	H24-1	課題名	アキアミ及びシラウオの資源生態調査					
期間	25～27年度	担当部課室	資源増殖室					
課題設定の背景	<p><b>1 政策上の位置付け</b> アキアミ資源の持続的利用及びシラウオの資源回復は、第3次おかやま夢づくりプランに掲げる県民の豊かな食を支える「旬の地魚の生産振興」に位置づけられる。</p> <p><b>2 県民や社会のニーズの状況</b> 両種とも岡山の食卓を彩る食材であるが、アキアミは漁獲量が不安定、シラウオは漁獲量が少なく高価であることから、いずれも資源の維持・回復が望まれている。</p> <p><b>3 県が直接取り組む理由</b> このようなニーズに対応できるのは人材と能力を有する水産研究所しかなく、低迷する漁船漁業の復活に向け本課題に取り組む必要がある。</p> <p><b>4 事業の緊要性</b> アキアミ資源を持続的に利用するためには、大きく変化する資源量変動の原因解明に取り組む必要がある。また、シラウオの漁獲量は40年前には数トン～十数トンあったものが、現在はほとんど漁獲がなく、緊急的に資源回復策を講ずる必要がある。</p>							
試験研究の概要	<p><b>1 目標</b> アキアミでは資源量変動に影響を及ぼす要因を、シラウオでは資源量が減少した原因をそれぞれ明らかにし、資源管理手法や産卵場造成等の生息環境改善策を検討する。</p> <p><b>2 実施内容</b> まず、吉井川及び旭川の河口域を中心に試験操業やネット採集等による生息実態調査を行い、両種の生活史の解明や分布域、生息環境等を把握する。併せて漁獲実態調査を実施する。</p> <p><b>3 技術の新規性・独創性</b> 両種の資源管理を目標とした調査は、全国初である。</p> <p><b>4 実現可能性・難易度</b> 両種とも資源量の変動要因を解明するのは容易ではないが、周年を通じ成長段階別に採集を試み、漁獲状況と環境条件などから資源動態をつかむ。</p> <p><b>5 実施体制</b> 資源増殖室3名を中心に、漁業者と連携し課題解決に取り組む。</p>							
成果の活用・発展性	<p><b>1 活用可能性</b> アキアミでは資源量変動要因を解明し効果的な資源管理手法の確立を、シラウオでは減少要因を解明し対策を講ずることで資源の回復を目指す。</p> <p><b>2 普及方策</b> 関係漁業協同組合や河川・港湾管理者、関係市町村等と連携し実用的方策を検討する。</p> <p><b>3 成果の発展可能性</b> 生活史や分布域、生息環境等が解明されることで、シラウオの産卵場造成等、両種の生息環境に配慮した河川・港湾工事への利活用も可能となり、河口域における生物生息環境の改善につながる。</p>							
実施計画	実施内容	年度	H 2 5	H 2 6	H 2 7	以降	総事業費  (単位：) 千円	
	(両種の生息実態調査) (アキアミ漁獲量調査) (シラウオ産卵場調査)	計画事業費	1,500	1,500	1,000			
		一般財源	1,500	1,500	1,000			
		外部資金等						
		人件費(常勤職員)	6,000	6,000	6,000	$3人 \times 0.25 \times 1年 \times 8,000千円$		
		総事業コスト	7,500	7,500	7,000			

(水産研究所) 試験研究計画書

番号	H24-2	課題名	海底情報高度利用調査				
期間	25～26年度	担当部課室	水圏環境室				
課題設定の背景	<p><b>1 政策上の位置付け</b> 底質等の情報（海底情報）は、漁場整備の基礎資料となるため、第3次おかやま夢づくりプランに掲げる儲かる産業に！攻めの農林水産業育成プログラムの「おかやまの里海づくりと海の恵みの持続的利用の推進」に位置づけられる。</p> <p><b>2 県民や社会のニーズの状況</b> 里海づくりを推進し、減少した水産資源を回復させることが、漁業者から広く求められており、今後の進展のために海底情報は漁場整備の基礎資料として不可欠である。</p> <p><b>3 県が直接取り組む理由</b> このようなニーズに対応できるのは特殊な測定機器と人材を有する水産研究所しかなく、県民が海の恵みを持続的に利用するために有効である。</p> <p><b>4 事業の緊要性</b> 漁船漁業の漁獲量は近年減少しており、漁場整備や底質改良事業を講ずる必要がある。低迷する漁船漁業復活に向け、漁場環境の修復は緊急の課題である。</p>						
試験研究の概要	<p><b>1 目標</b> 岡山県浅海域の底質情報及び人工魚礁等の位置情報を詳細に把握し、今後の漁場改良事業や漁場高度利用の基礎資料とする。</p> <p><b>2 実施内容</b> 良好であった漁場及びその周辺の底質や漁場整備後の海底図をサイドスキャンソナーで解析するとともに実際の底質を粒度分布測定装置を用いて調査する。</p> <p><b>3 技術の新規性・独創性</b> 本県の漁場及び浅海域の底質環境を明らかにした事例はなく、海底情報を可視化することで、より効果的な漁場整備等の事業推進が可能となる。</p> <p><b>4 実現可能性・難易度</b> 収集した海底情報を分かりやすく表現するためには、データの加工処理が必要である。</p> <p><b>5 実施体制</b> 水圏環境室2名を中心に、地元漁協、水産課及び他の研究機関と連携の上、効率的に調査を実施する。</p>						
成果の活用・発展性	<p><b>1 活用可能性</b> 県東部海域で行われている漁場整備等の基礎資料として利用できる。</p> <p><b>2 普及方策</b> 水産課や海域管理者等と協議しながら、里海づくりなどの事業推進に活用する。</p> <p><b>3 成果の発展可能性</b> 将来的には、サイドスキャンソナーのデータのみで、海底情報を詳細に把握することが可能となる。</p>						
実施計画	実施内容	年度	H 2 5	H 2 6		以降	総事業費  (単位：) 千円
		(県東部海域) (県西部海域)					
	計画事業費	1,000	1,000	0			
	一般財源	1,000	1,000	0			
	外部資金等	0	0	0			
	人件費(常勤職員)	4,000	4,000	0	2人×0.25×1年 ×8,000千円		
総事業コスト	5,000	5,000	0				

(水産研究所) 試験研究計画書

番号	H24-3	課題名	県産魚介類の成分特性の解明			
期間	25～26年度	担当部課室	開発利用室			
課題設定の背景	<p>1 政策上の位置付け 第3次おかやま夢づくりプランの中で、県民の豊かな食を支える「旬の地魚の生産振興」に位置づけられる。</p> <p>2 県民や社会のニーズの状況 漁業者は地魚の付加価値向上と評価アップを、消費者は地魚の特徴や旬に関する情報を、それぞれ求めている。</p> <p>3 県が直接取り組む理由 このようなニーズに対応できるのは、県内唯一の水産に関する試験研究機関である水産研究所しかなく、県民の豊かな食を支える漁業の確立のために有効である。</p> <p>4 事業の緊要性 地魚の単価下落と消費の低迷は漁船漁業と岡山の食文化の衰退につながることから、早急な対策が必要である。</p>					
試験研究の概要	<p>1 目標 地魚の成分特性を科学的に明らかにする。</p> <p>2 実施内容 地域の特産種（スズキ、カサゴ、ヒラ、アイゴ、ヨシエビ、サルエビ等）を選定し、その身太り、生殖腺重量、一般成分、うま味成分（遊離アミノ酸組成等）を毎月1回調査することで、季節変化と「旬」を明らかにする。</p> <p>3 技術の新規性・独創性 県産水産物の成分特性は、これまでほとんど解明されていなかった。</p> <p>4 実現可能性・難易度 代表的な県産水産物を選定することで、実現可能である。</p> <p>5 実施体制 開発利用室3名のほか、岡山県立大学保健福祉学部栄養学科と連携し、栄養学的、調理学的観点からの評価も行う。</p>					
成果の活用・発展性	<p>1 活用可能性 成果は水産研究所のホームページ等で紹介する。</p> <p>2 普及方策 県漁連、関係団体等を通じて、地魚と旬の情報を広く消費者に提供することで、購買意欲の促進を図る。</p> <p>3 成果の発展可能性 成分特性や旬が明らかになることで、地魚の付加価値や優位性が高まる。</p>					
実施計画	実施内容	年度	25	26	以降	総事業費
	成分分析					(単位：千円)
	計画事業費		1,200	600		
	一般財源		1,200	600		
	外部資金等		0	0		
人件費(常勤職員)		3,680	3,680		1人×0.46×1年×8,000千円	
総事業コスト		4,880	4,280			